

第2章 市民の健康状況

第1節 保健統計からみた市民の健康

(1) 人口と年齢構成の推移

秋田市の人口は、平成14年をピークに減少に転じ、平成17年1月の市町合併により一旦人口は増加したものの、減少傾向が続いています。

年齢3区分別人口割合の推移をみると、昭和50年代以降の出生数の減少傾向と死亡状況の改善による高齢層の増加から、0歳から14歳までの年少人口の割合および15歳から64歳までの生産年齢人口の割合が低下傾向にある一方、65歳以上の老年人口の割合は上昇傾向にあります。今後も、少子高齢化が進み、平成42年には、約10人に4人が65歳以上となると見込まれます。

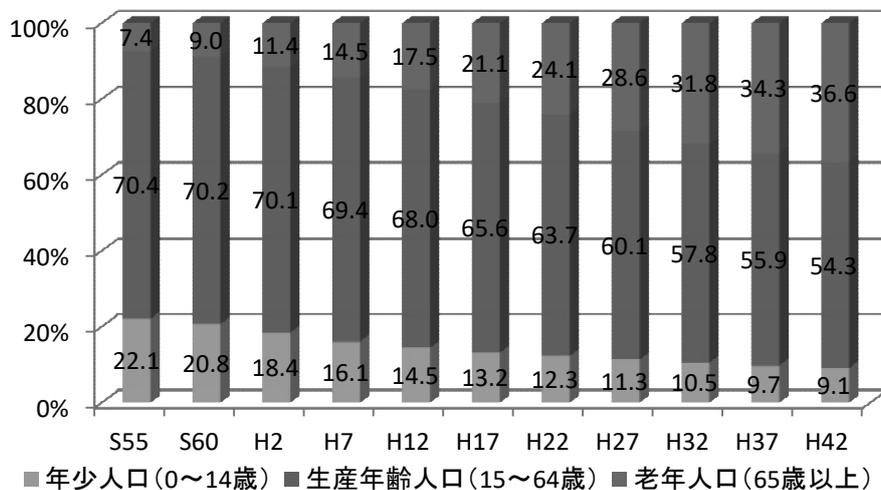
表1 秋田市の人口の年次推移

単位：人

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
総人口	325,837	323,600	322,534	321,783	320,154	318,700	315,814	313,668	
(再掲)	年少人口 (0～14歳)	40,684	39,574	39,059	38,483	37,820	37,232	34,916	34,352
	生産年齢人口 (15～64歳)	207,731	205,301	204,245	201,108	197,880	193,896	186,207	182,728
	老年人口 (65歳以上)	77,061	77,625	78,130	81,092	83,354	86,472	88,713	90,610
	年齢不詳	361	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	5,978	5,978

資料：みてみて秋田市統計（人口・世帯） 秋田市企画調整部情報統計課（各年10月1日現在）

グラフ1 年齢3区分別人口割合の年次推移（各年10月1日現在、平成32年以降は推計）



資料：みてみて秋田市統計（人口・世帯） 秋田市企画調整部情報統計課

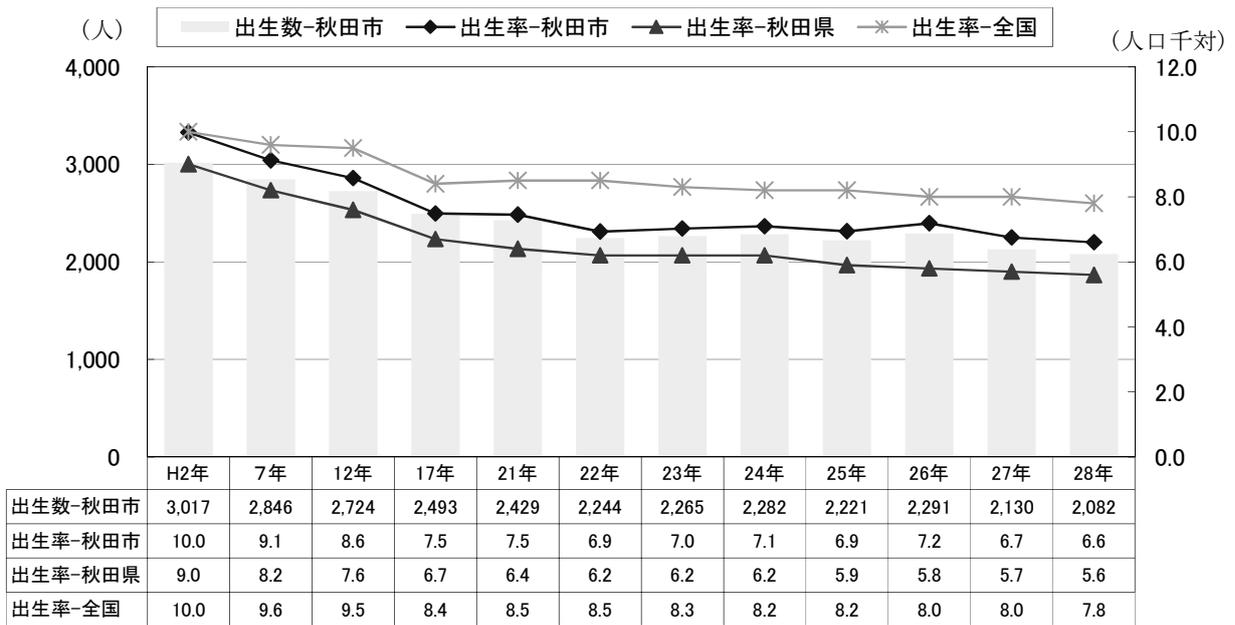
秋田市の将来推計人口・世帯数（平成24年11月推計） 秋田市企画調整部情報統計課

(2) 出生と死亡の動き

秋田市の出生数は、昭和46年から49年の第2次ベビーブーム期以降、減少傾向が続いており、平成28年は2,082人となっています。出生率は、秋田県の値よりも高いものの、全国平均を下回っています。

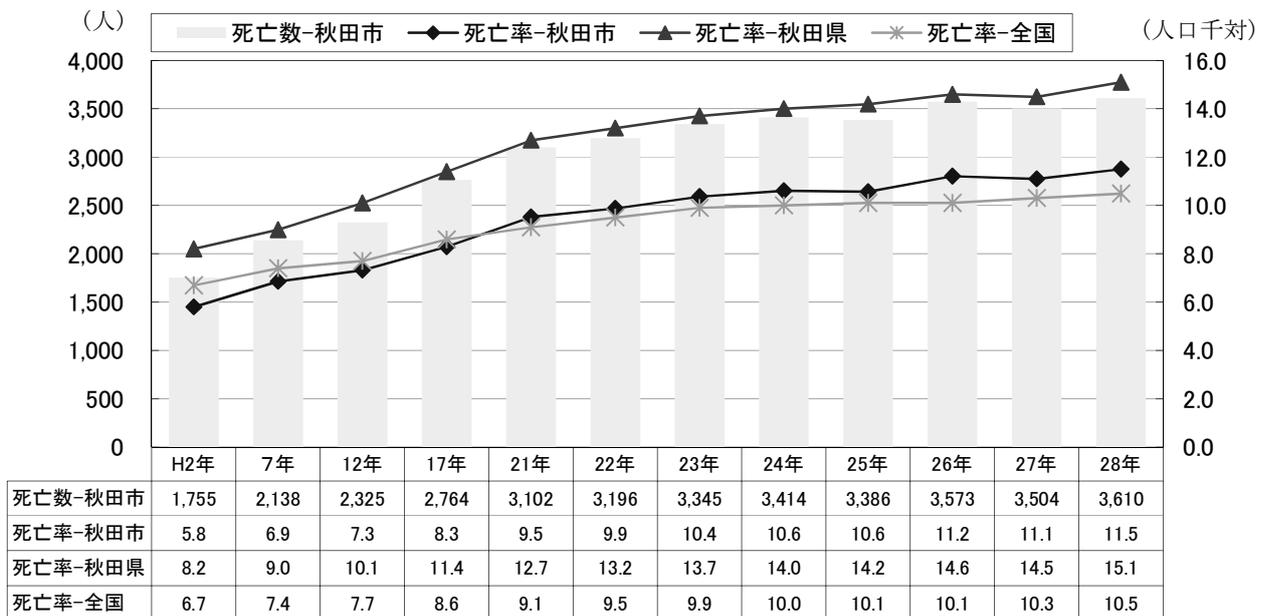
死亡数は、昭和40年以降、ほぼ一貫して増加しており、平成28年は3,610人となっています。死亡率は、これまで秋田県よりも低い率で推移しているものの、平成18年以降、全国平均を上回っています。

グラフ2 出生数と出生率の年次推移



資料：秋田市の人口動態 平成28年までのあらし

グラフ3 死亡数と死亡率の年次推移

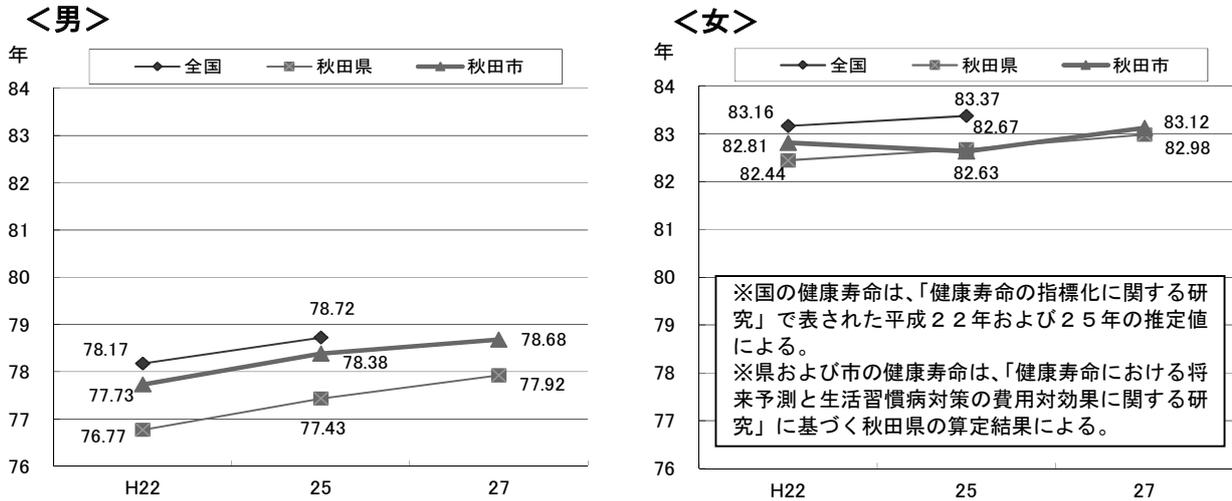


資料：秋田市の人口動態 平成28年までのあらし

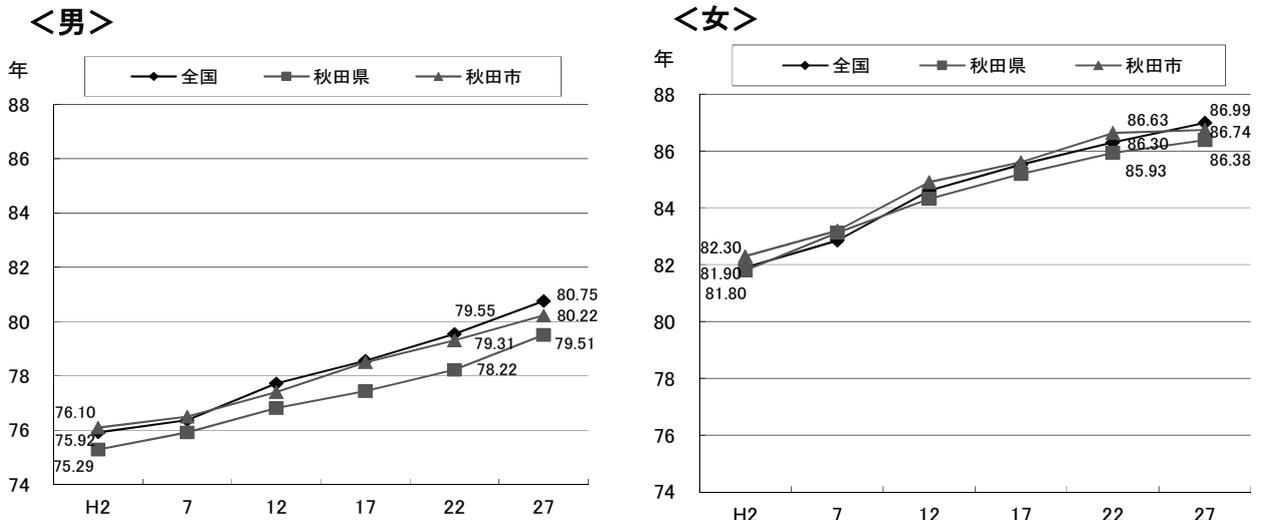
(3) 健康寿命・平均寿命

平成22年と27年の秋田市の健康寿命「日常生活動作が自立している期間の平均」を比較すると、男性は0.95年、女性は0.31年延びています。一方、平均寿命について同年で比較すると、男性は0.91年、女性は0.11年の伸びであり、男女ともわずかながら健康寿命の増加分が平均寿命の増加分を上回っています。

グラフ4 健康寿命「日常生活動作が自立している期間の平均」(平成22年, 25年, 27年)



グラフ5 平均寿命の推移 (平成2年~27年)



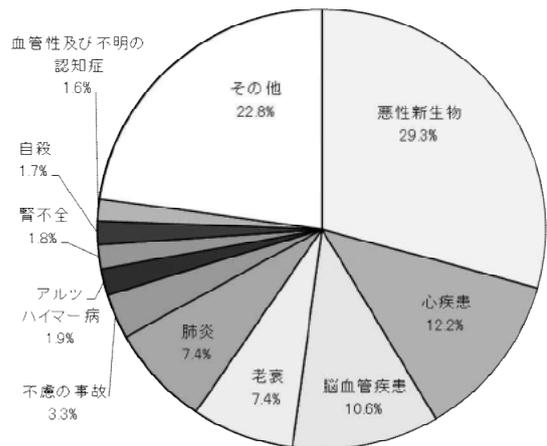
資料 厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」
 厚生労働科学研究費補助金「健康寿命の指標化に関する研究」
 厚生労働省 完全生命表、都道府県別生命表、市区町村別生命表

(4) 死因別割合

平成28年の秋田市の死亡数は3,610人で、死因の第1位が悪性新生物(がん)で1,057人、第2位が心疾患(心臓病)で441人、第3位が脳血管疾患(脳卒中)で383人となり、いわゆる生活習慣病とされる3大死因で全死因の52.1%を占めています。

グラフ6 死因別割合 (平成28年)

資料: 秋田市の人口動態 平成28年までのあらまし

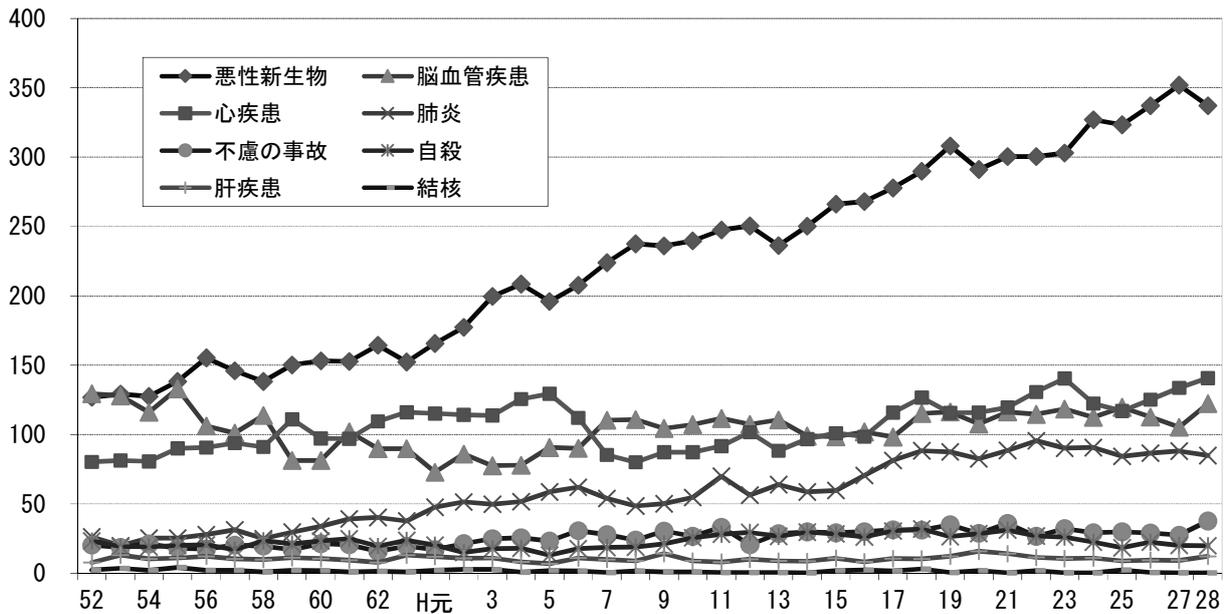


(5) 主要死因別死亡率の年次推移

平成28年の主な死因別の死亡率（人口10万対）をみると、悪性新生物（がん）337.0、心疾患（心臓病）140.6、脳血管疾患（脳卒中）122.1、肺炎84.8、自殺19.8などとなっています。

年次推移をみると、悪性新生物は増加の傾向にあり、昭和53年以降死因順位の第1位となっています。第2位の心疾患および第3位の脳血管疾患は、平成7年頃から概ね横ばいで推移しています。

グラフ7 主要死因別死亡率の年次推移（人口10万対）

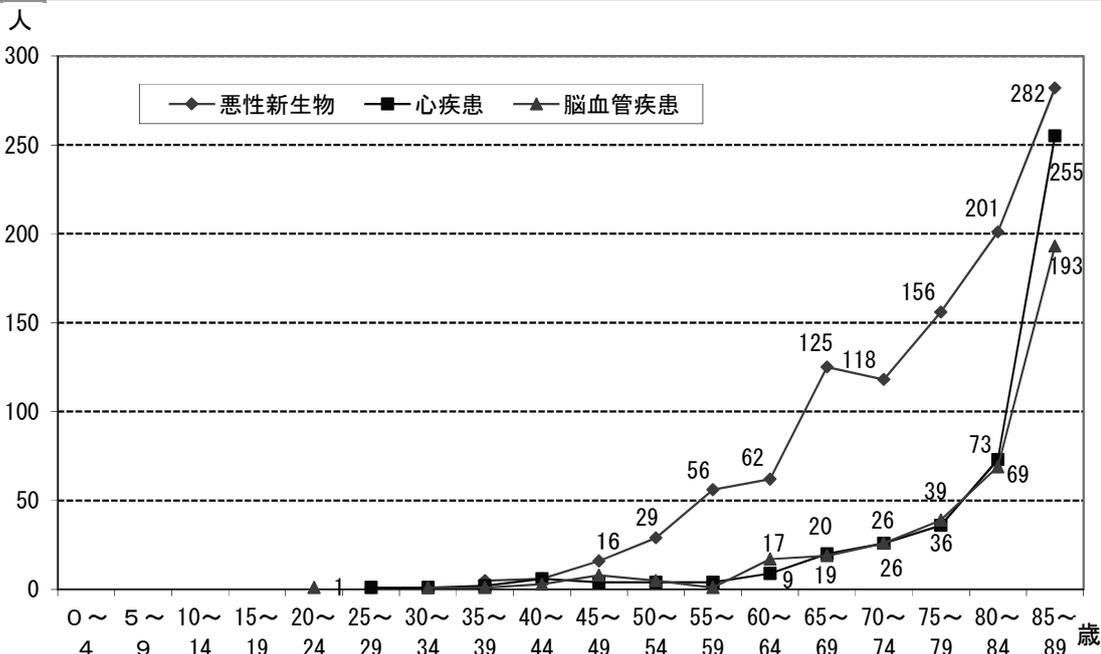


資料：秋田市の人口動態 平成28年までのあらまし

(6) 3大死因の年齢階級別死亡数

秋田市における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の3大死因の死亡数を年齢階級別にみると、心疾患と脳血管疾患は70歳代から、悪性新生物は50歳代前半から増え始めています。

グラフ8 3大死因の年齢階級別死亡数（平成28年）

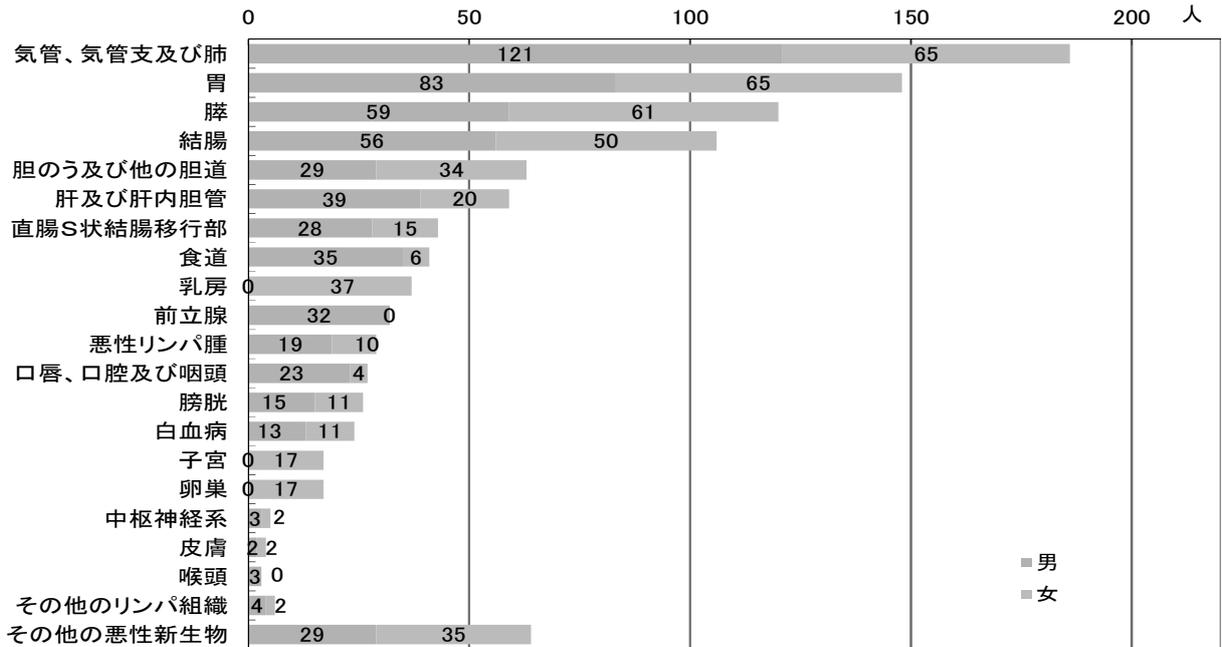


資料：秋田市の人口動態 平成28年までのあらまし

(7) 性・部位別にみた悪性新生物死亡数

秋田市における悪性新生物による死亡数を性別・部位別にみると、肺がんによるものが186人（男121人、女65人）と最も多く、全体の17.6%（男20.4%、女14.0%）を占めています。続いて胃がん148人（男83人、女65人）、膵がん120人（男59人、女61人）、結腸がん106人（男56人、女50人）などの順となっています。

グラフ9 性・部位別にみた悪性新生物死亡数（平成28年）

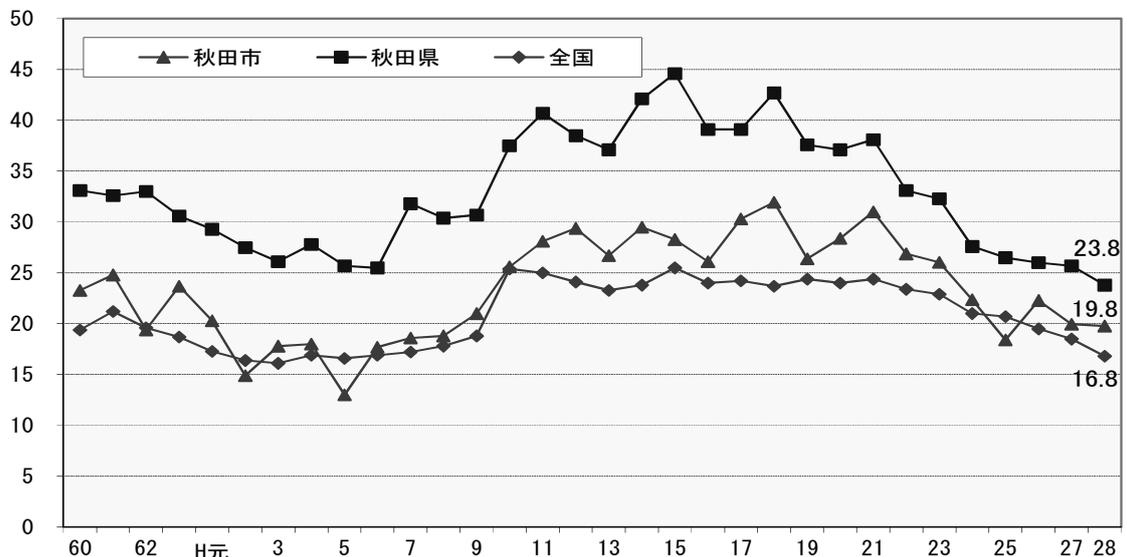


資料：秋田市の人口動態 平成28年までのあらまし

(8) 自殺死亡率の年次推移

自殺死亡率の推移をみると、秋田市、秋田県、全国ともに平成7年以降上昇傾向にありましたが、平成18年度以降、減少傾向に転じております。秋田市は、一貫して秋田県の値を下回っているものの、概ね全国平均を上回って推移しています。近年は、全国平均との差は縮小傾向にあります。

グラフ10 自殺死亡率（人口10万対）の年次推移



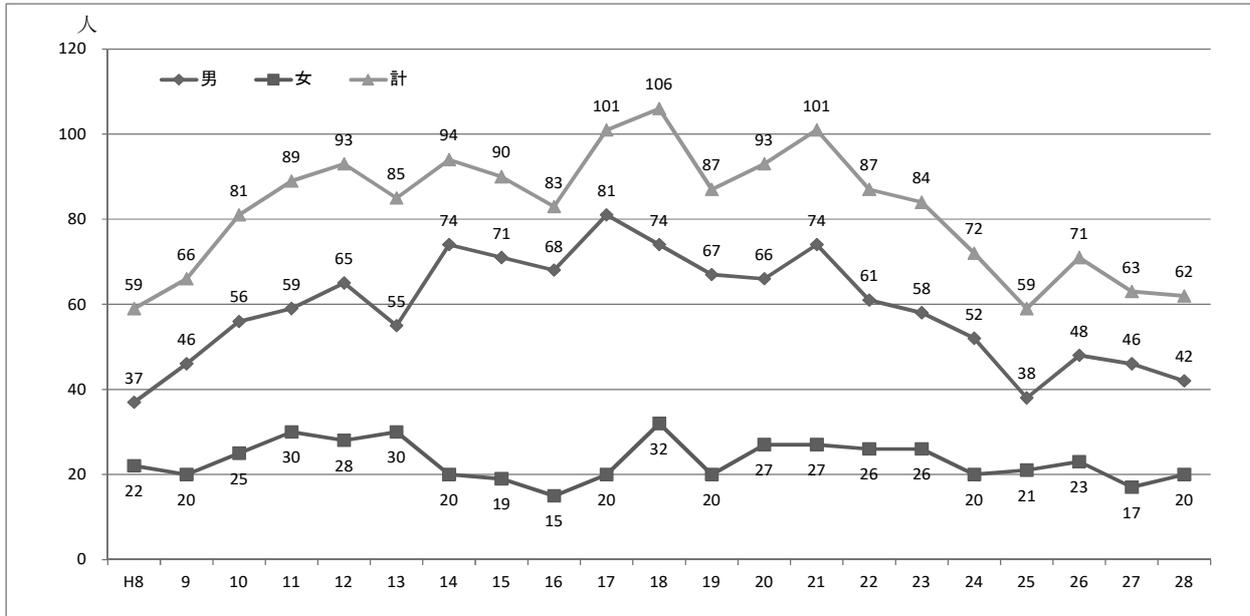
資料：秋田市の人口動態 平成28年までのあらまし

第二章

(9) 自殺死亡数の年次推移

秋田市における自殺死亡数の推移をみると、平成18年(106人)以降減少傾向が続いており、平成28年の自殺死亡数は62人となっています。自殺死亡数を男女別にみると、男性が女性を上回っており、平成28年では男性の自殺死亡数が全体の67.7%を占めています。

グラフ11 自殺死亡数の年次推移

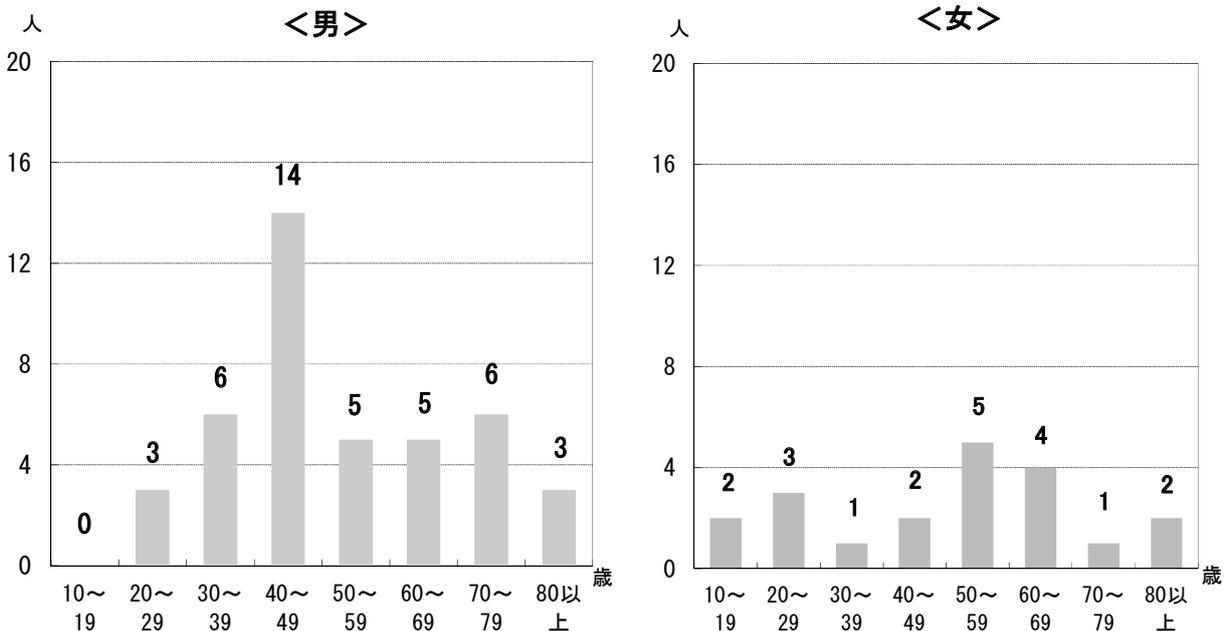


資料：秋田市の人口動態 平成28年までのあらし

(10) 年齢階級別にみた自殺死亡数

平成28年の秋田市における自殺死亡数を年齢階級別にみると、最も多いのは、男性では40歳代が14人(33.3%)、女性では50歳代が5人(25.0%)となっています。

グラフ12 年齢階級別自殺死亡数(平成28年)



資料：秋田市の人口動態 平成28年までのあらし

(11) 国民健康保険被保険者における1人当たりの年齢別診療費の推移

1人当たりの年齢別診療費は、40歳代以降の年齢層が増加しています。

表2 一人当たりの年齢別医療費の推移

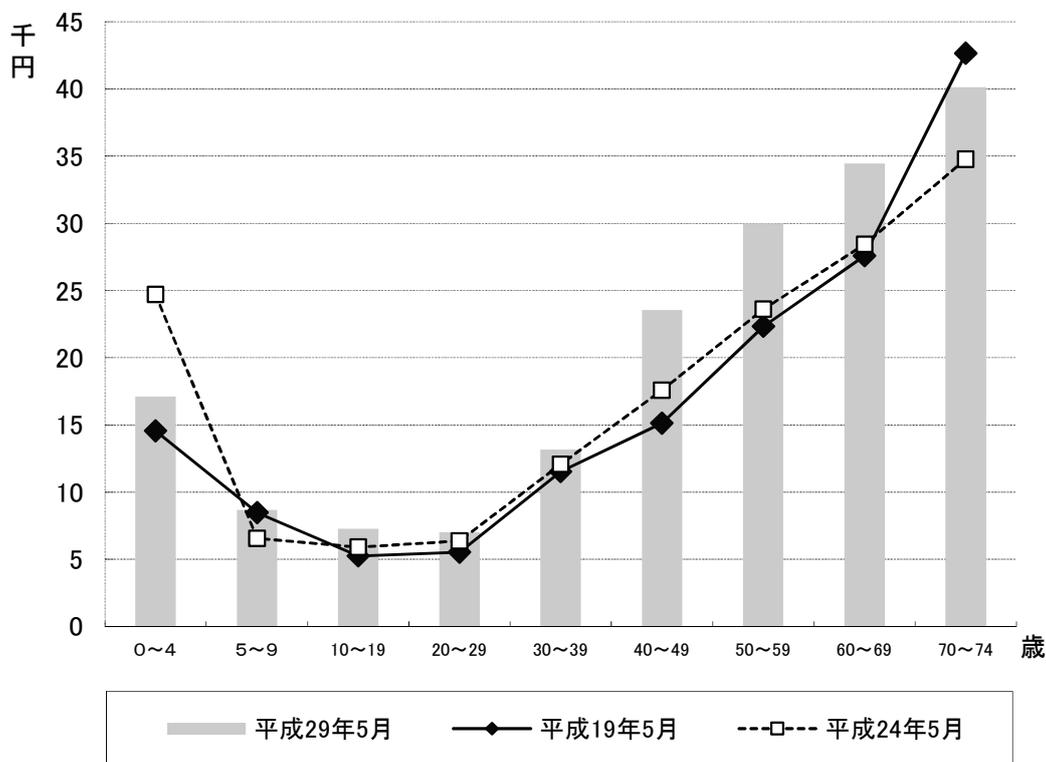
(単位:円)

年 齢	H19年5月	H24年5月	H29年5月
0歳～4歳	14,565	24,715	17,133
5歳～9歳	8,478	6,566	8,691
10歳～19歳	5,243	5,922	7,287
20歳～29歳	5,529	6,372	7,041
30歳～39歳	11,534	12,085	13,175
40歳～49歳	15,136	17,594	23,570
50歳～59歳	22,340	23,626	29,994
60歳～69歳	27,604	28,452	34,457
70歳～74歳	42,643	34,763	40,128

※平成19年の70～74歳は、70歳以上の金額

資料：秋田県国民健康保険団体連合会 統計資料から集計

グラフ13 一人当たりの年齢別医療費の推移



資料：秋田県国民健康保険団体連合会 統計資料から集計

(12) 国民健康保険における生活習慣病の状況

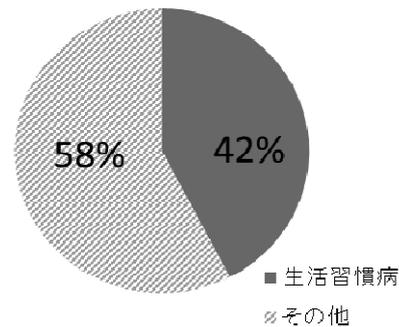
平成29年5月（医療費の統計調査の全国的基準月）診療分における疾患分類別の件数をみると、生活習慣病が上位にきており、循環器系疾患（高血圧や脳血管疾患など）、内分泌（糖尿病や脂質異常症など）、消化器系疾患の件数だけで全体の42%になっています。

表3 疾病分類(19分類)による件数(平成29年5月診療分)

	疾病名	件数
1位	循環器系	9,651
2位	内分泌	7,360
3位	筋骨格系	6,159
4位	眼疾患	4,518
5位	消化器系	3,780
6位	呼吸器系	3,740
7位	精神障害	3,091
8位	皮膚疾患	2,424
9位	腎尿路生殖器	2,004
10位	新生物	1,654
11位以下	上記以外の疾患	4,703
	合計	49,084

グラフ14

疾病分類(19分類)による件数のうち生活習慣病の割合(平成29年5月診療分)



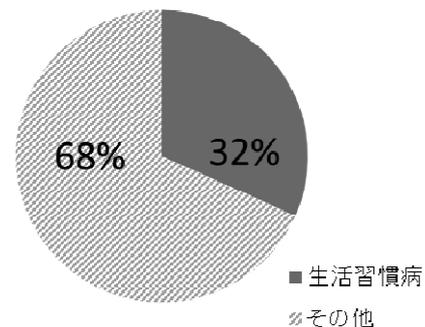
資料：秋田県国民健康保険団体連合会 統計資料から秋田市分を集計

表4 疾病分類(19分類)による医療費(平成29年5月診療分)

	疾病名	費用額(円)
1位	新生物	300,089,980
2位	循環器系	299,419,810
3位	精神障害	209,066,290
4位	内分泌	168,793,170
5位	筋骨格系	166,356,490
6位	腎尿路生殖器	155,824,050
7位	消化器系	121,412,940
8位	呼吸器系	106,671,950
9位	神経系	89,595,770
10位	眼疾患	67,390,200
11位以下	上記以外の疾患	176,653,000
	合計	1,861,273,650

グラフ15

疾病分類(19分類)による医療費のうち生活習慣病の割合(平成29年5月診療分)



資料：秋田県国民健康保険団体連合会 統計資料から秋田市分を集計

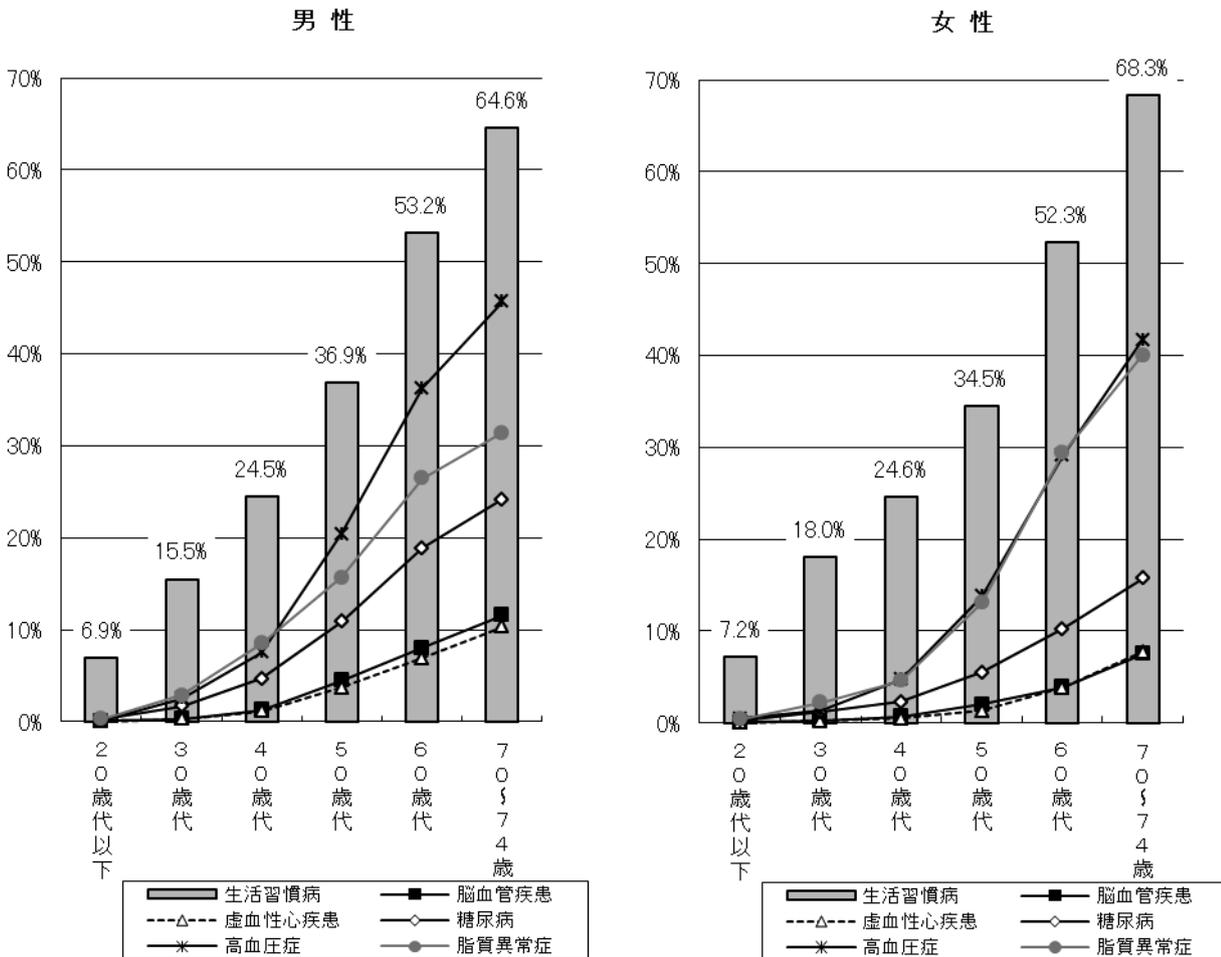
※ 社会保険表章による疾病分類表(119項目)から、大分類である下記の19分類を集計

- 1 感染症及び寄生虫症
- 2 新生物
- 3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
- 4 内分泌、栄養及び代謝疾患
- 5 精神及び行動の障害
- 6 神経系の疾患
- 7 眼及び付属器の疾患
- 8 耳及び乳様突起の疾患
- 9 循環器系の疾患
- 10 呼吸器系の疾患
- 11 消化器系の疾患
- 12 皮膚及び皮下組織の疾患
- 13 筋骨格系及び結合組織の疾患
- 14 腎尿路生殖器系の疾患
- 15 妊娠、分娩及び産じょく
- 16 周産期に発生した病態
- 17 先天奇形、変形及び染色体異常
- 18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
- 19 損傷、中毒及びその他の外因の影響

生活習慣病の代表的なもの(糖尿病、高血圧症、脂質異常症、虚血性心疾患、脳血管疾患)の件数は、いずれの疾患でも年齢が上がるごとに割合が上昇しています。

グラフ16 生活習慣病の年齢別件数の割合, 男 (平成29年5月診療分)

グラフ17 生活習慣病の年齢別件数の割合, 女 (平成29年5月診療分)



資料: 秋田県国民健康保険団体連合会 統計資料から集計

(13) 介護保険 要介護(要支援)認定者数

高齢化に伴い、要支援・要介護認定者数も増加しています。

表5 要介護(要支援)認定者数

(単位:人)

年度	要介護度							認定者数 合計	第2号再掲 (40歳~64歳)
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
24年度	2,356	2,072	3,744	3,181	2,433	2,127	1,940	17,853	448
25年度	2,429	2,265	3,889	3,199	2,611	2,219	1,889	18,501	467
26年度	2,558	2,346	3,971	3,187	2,629	2,145	1,767	18,603	417
27年度	2,730	2,310	4,226	3,125	2,684	2,089	1,722	18,886	457
28年度	2,684	2,310	4,333	3,127	2,755	2,059	1,723	18,991	418

資料: 秋田市福祉の概要

第2節 意識調査からみた市民の健康

(1) 現在の健康状態について

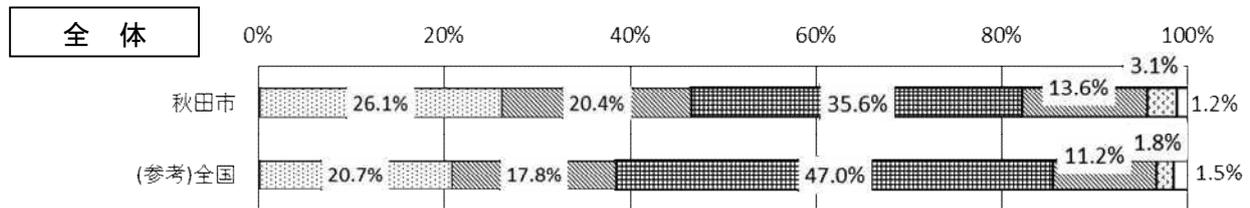
健康意識の構成割合をみると、現在の健康状態について「よい」又は「まあよい」と回答した割合は46.5%と、全国を8ポイント上回っていますが、「ふつう」も含めた割合は82.1%であり、全国の85.5%よりもわずかながら低い状況です。

16歳以上の健康意識を性別・年齢別にみると、「よい」「まあよい」「ふつう」の回答の割合が年齢をおうごとに低下しています。

【平成28年度市民健康意識調査】

【平成28年国民生活基礎調査】

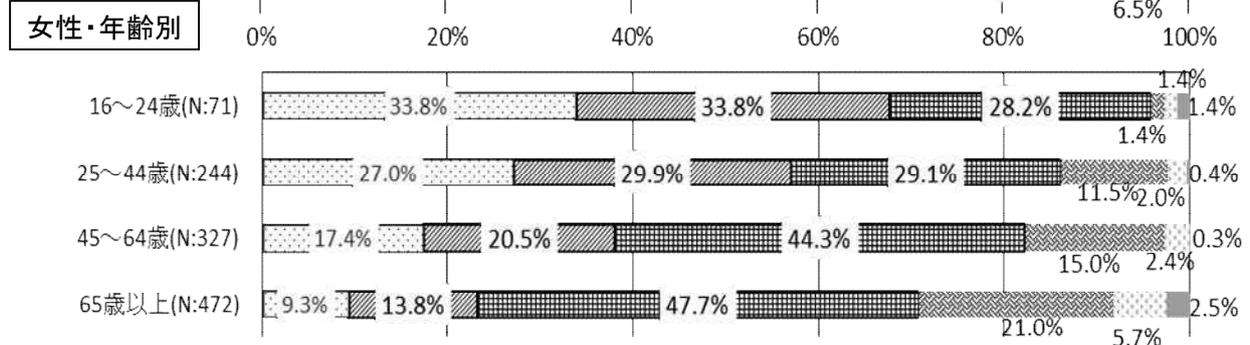
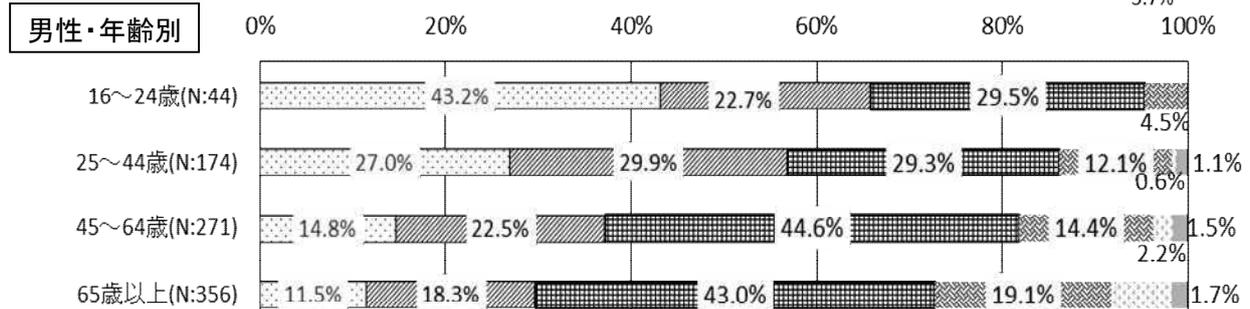
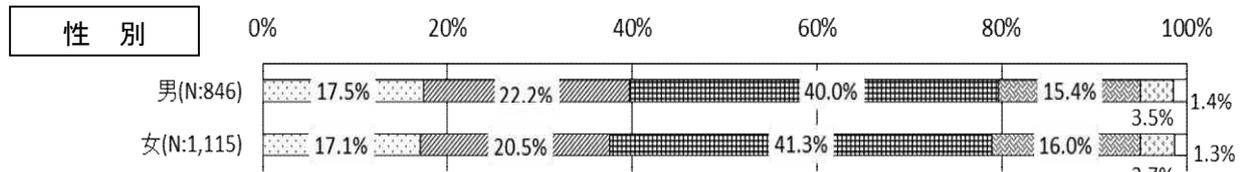
【問】あなたの現在の健康状態はいかがですか



※秋田市のデータは、平成28年度市民健康意識調査（16歳以上）および同（15歳以下）の集計結果の合計により算出

※全国のデータは、平成28年国民生活基礎調査「表13 性別にみた健康意識の構成割合（6歳以上）」から抜粋

<性別・年齢別の状況（16歳以上）・秋田市>



□よい ■まあよい ▨ふつう ※あまりよくない ☆よくない ■無回答

※平成28年度市民健康意識調査（16歳以上）より集計

(2) 普段健康のために気をつけていること

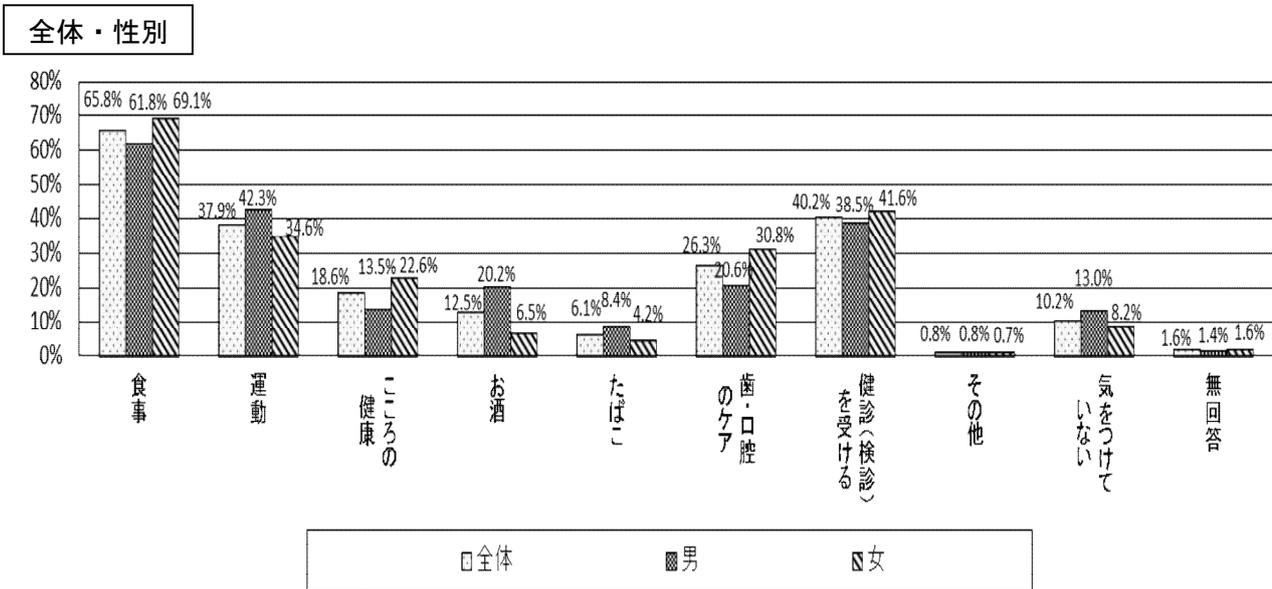
普段健康のために気をつけていることについて、「食事」と回答した割合が65.8%と最も多く、以下、「健診（検診）を受ける」40.2%、「運動」37.9%、「歯・口腔のケア」26.3%、「こころの健康」18.6%、「お酒」12.5%などの順となっています。

性別で比較すると、「運動」「お酒」「たばこ」に気をつけている割合は男性の方が多く、「食事」「こころの健康」「歯・口腔のケア」に気をつけている割合は女性の方が多い状況です。

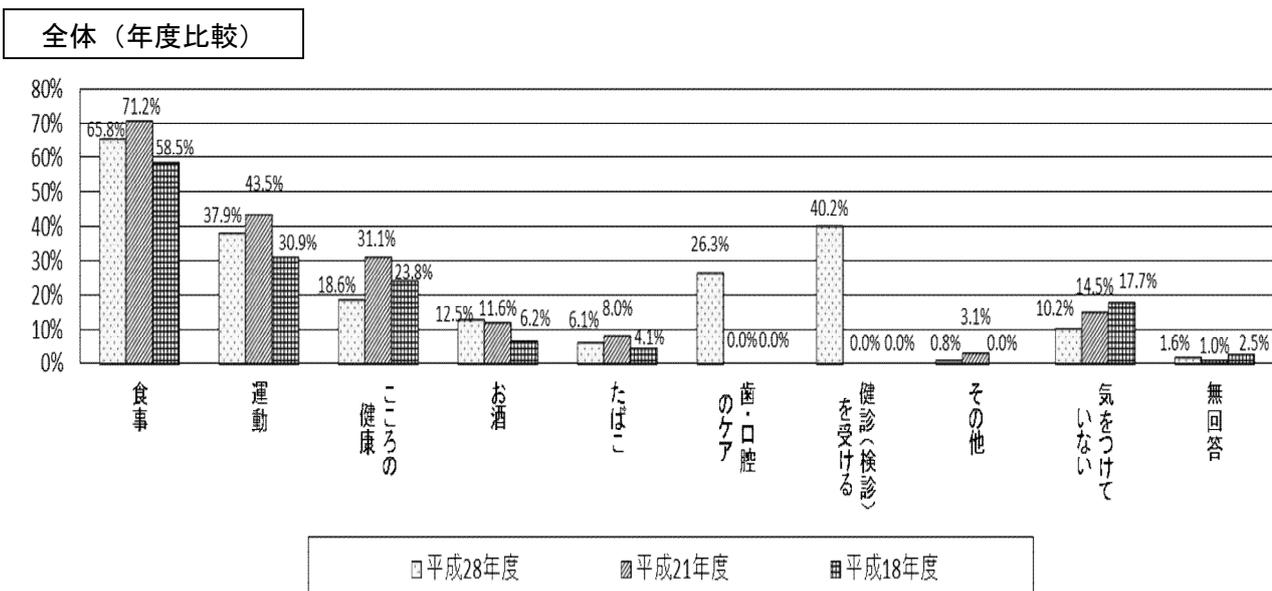
また、普段健康に「気をつけていない」と回答した人の割合は、平成18年度が17.7%、21年度が14.5%、28年度が10.2%と減少傾向にあります。

【平成28、21、18年度市民健康意識調査（16歳以上）】

【問】あなたは、ふだん健康のために、どんなことに気をつけていますか。＜複数回答＞



※平成28年度市民健康意識調査（16歳以上）より集計



※平成28、21、18年度市民健康意識調査（16歳以上）より集計

※「歯・口腔のケア」「健診（検診）を受ける」の選択肢は、平成28年度の調査から追加